

実践的な学びで、社会の「いま」を捉える視点を養成。

現代社会学科では将来の仕事に活かせる実践的能力の養成を目的に、社会の「現場」で学ぶ実習科目を設置しています。国内の企業や地方自治体、NGO/NPO、さらには海外において就業体験や調査活動等に取り組み、社会の「いま」に対する認識を深めていきます。また、デジタル表現について学ぶ授業もあります。

現代社会実習 I -1



社会の「現場」を体験し、実践的なスキルを磨く。

京都ならではの町家を利用して、イベントを開催しよう！

キャンパスから飛び出して「現場」で様々な経験をし、社会で役立つスキルを養う「現代社会実習 I -1」。ここでは「企業研究・NPO研究」を専門とする川本卓史教授が担当する実習をピックアップしてご紹介します。川本教授のクラスの2007年度春学期の課題は、京都の伝統的な町家を利用して学生がイベントを行うというもの。イベントの企画から準備、実施に至るまで学生が主体的に活動に取り組みます。

第1回目の授業では、学生が京都市中京区にある町家を訪問しました。そもそも今回利用する町家は、京都のオフィス用品販売会社「カスタネット」がフリースペースとして開放しているところ。当日は同社の代表取締役社長、

植木力さんが、町家の魅力やフリースペースの利用方法などについてお話しくださいました。

「畳の上でひざを突き合わせていると本音で語り合えるんです。学生や起業家など様々な年代や業種の人たちがここで出会い、新しいビジネスやアイデアが生まれることを期待しています」

そんな植木社長の言葉に大きくなずいた学生たち。実際に町家という空間に身を置き、その場の雰囲気を感じた学生たちは、「初めて来るのにどこか懐かしい」「ここで多くの人と触れあいたい」「日本の良さを感じる」「ここなら面白いことができそう。ワクワクしてきた」といった町家に対する感想や実習への意気込みを語りました。

